

今を未来に

2～5年生NRT、4・5年生みえスタディチェックの結果及び6年生全国学力・学習状況調査の結果から

1学期に、全国学力・学習状況調査（6年生）NRT（2～5年生）・みえスタディチェック（4・5年生）を行いました。この検査は、4月に行い、前年度の学年（例：2年生であれば1年生の時）の学習内容をどれだけ身に付けているのかを検査するものです。新しく出会った学年の子どもたちの学力面での強みと弱みをつかみ、授業改善に生かすことを目的に行っています。そのためこの結果は、連絡表の評価対象外となっています。以下に、今年度の2年生から6年生までの学年の結果をお伝えします。また、「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについてお知らせします。

全国学力・学習状況調査、NRTについての個人票につきましては、後日、お子様に返却いたします。個別の詳しい結果についてはそちらをご覧ください。

全国学力・学習状況調査における47都道府県毎の正答率の差はほとんどなく、問題数にすると1問できるかできないかの範囲内です。しかし、報道等により、こうした学力の一側面（数字に表れる学力）をもとにした結果の順位にばかり捉われてしまい、本来の目的（子どもたちの学力『保障』をするために指導の工夫・改善を図ること）が見失われる傾向があります。

私たちが分析結果を公表するにあたり、平均に対してどうであったかはお伝えするものの、その学年の「強み」「弱み」を的確につかみ、授業改善・工夫すべき点を明らかにすることを大切にしていきたいと確かめ合いました。そして、家庭学習に関わるころは、お子様一人ひとりに自覚して欲しいと思うこと、家庭で気を付けて協力して欲しいと考えていることを書きました。ぜひご一読ください。

【6年生 全国学力・学習状況調査の結果より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

2教科ともに全国平均を下回る結果となりました。

2. 「強み」と「弱み」にかかわって

（強み）国語：漢字を文の中で正しく使うことができました。全国の正答率よりも上回る結果となりました。また、語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができました。

算数：「データの活用」の中の棒グラフから、必要な数量を選び、読み取ることができました。速さが一定であることから、道のりと時間の関係について考えることができました。

（弱み）国語：「読むこと」において、目的に応じ、文章と図とを結び付けて必要な情報を見付ける問題や目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題に課題が見られました。

算数：全国的に見ても「図形」に課題があり、本校でも、三角形の面積を解く問題では、図の中に計算に必要な数字を使ってしまうたり、底辺×高さ÷2という公式が定着していなかったりと課題が見られました。また、「変化と関係」の中の速さを求める式と商の意味

の理解に全国正答率よりも大きく下回る結果となりました。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

2 教科ともに全国平均・三重県の平均を下回る結果となりました。基礎学力の定着に課題があることが分かりました。

1 学期の朝の学習では、学・Viva の中にある過去問を活用し、文章問題に取り組みました。長い文章から何を問われているのか、必要な数字はどれを使ったらよいのか、など読み取る練習を行いました。1 学期に引き続き、基礎学力の定着を深めたいと考え、2 学期は、復習に重点を置き、計算問題や平行四辺形や三角形の面積の公式など基礎学力の定着を図っていきます。

また、書くことについても、いずれの教科においても課題としてみられます。そのため、普段の授業においても、書く機会を多く設定するとともに、条件を提示したりキーワードを使ったりして、文を論理的に書くことができるような力をつけていきます。算数ではノートに式だけを書くのではなく、解を導いた手順や考え方を文で表す活動をさらに積極的に取り入れていきます。

4. 質問紙から見られる特徴 (子どもの学習・生活状況や学校運営に関して課題と考えられること)

・自分にはよいところがあると答えている児童の割合が高く、人の役に立つ人間になりたいと答えている児童がほとんどである。

⇒自分の良さに気づき、自分が人の役に立てることをしていきたいと考えている子どもが多いということからも、自分が社会の役に立つことができるという経験をさらに積み重ねていくような取り組みを行っていきます。

・学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）、1 日あたりに勉強する時間や読書にかかる時間が 1 時間以上と回答している児童が多い。

⇒6 年生として設定した目標時間以上に自主的に学習をしている子が多いようです。今後は、家庭学習の振り返りとも関連させ、宿題の内容や量を見直したり、自主学習の内容などについても、学習の理解力につなげることができるように働きかけを継続して行っていきます。

・友だちと協力するのは楽しいですかに対して、楽しいと回答している子の割合が高く、なおかつ、自分の思っていることをきちんと言葉で表すことができていると答えている子が多い。

⇒これまでの、総合的な学習の時間による取り組みや、話し合いを大切にしてきたことが、自分の思いを言葉で表すことができるという自信につながっているということから、今後もみんなで話し合い、みんなで取り組むという姿勢を大切にしていきます。

5. 家庭学習にかかわって

1 学期同様、音読や漢字ドリル、計算ドリルに加え、算数プリントを宿題として出しています。その日の授業の復習であったり、今までに習った筆算であったりが主な内容になっています。その時の学年、その時の単元として学んでいるときには、分かっていたのだけれど...という声が聞かれます。何度も復習し、定着を図る必要があると考えます。中学生に向けて、自分で課題を見つけ取り組む力をつけるためにも自主学習の課題も出していこうと考えています。

また、家庭学習振り返り週間の結果からインターネット、スマートフォンの利用において課題が見られます。インターネットやスマートフォンが普及する今、ゲームやスマートフォンに依存していないか、ルールが守られているか、学習時間が確保されているのか、自分で見直せるような働きかけを継続してい

きます。ご家庭でお子様がどのように取り組んでいるのかを見て、アドバイスしていただくと、お子様の学習状況をつかんだり、課題となる部分が見えやすくなるかもしれません。見えてきたこと、思われたことについて担任に教えていただくと、今後の指導の改善にもつながりますので、ぜひともお話を聞かせてください。

【5年生到達度検査NRT・みえスタディチェックの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

NRTテストの結果は、国語・算数ともに全国平均を上回る結果となりました。特に、国語が大きく全国平均を上回っています。国語、算数どちらの教科も全国の理解力の平均を上回る結果となりました。

みえスタディチェックの結果は、国語はわずかに県平均を上回り、算数はわずかに県平均を下回る結果となりました。

2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：観点別の集計から「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」の4つすべての観点について平均値を上回り、バランスよく力がついていると言えます。特に、「読むこと」の「詳細を読み取って解釈する」「考えや感想をもって伝え合う」については全国と比べて非常に高い習熟度となっていました。

算数：「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4つの全ての領域において平均値を上回り、まんべんなく力がついていると言えます。特に、「変化と関係」の領域では、グラフの変化を読み取る問題や表に数をあてはめる問題において非常に高い習熟となっていました。

(弱み) 国語：みえスタディチェックにおいては、観点別の集計を相対的に見てみると「書くこと」が若干苦手があることがわかりました。

NRTの結果では、「情報を選び構成を考えて話す」の中で、発表・話す事柄の整理の問題で特に弱みがありました。

算数：大領域の集計を相対的に見てみると「図形」に弱みがありました。特に「角の大きさ」の問題は、唯一全国よりも低い得点率になりました。三角定規を用いた角の大きさを求める問題で弱みがありました。

さらに、みえスタディチェックの問題形式毎の正答数を見ていくと「選択式」「短答式」においては高い正答数であるのに対し、「記述式」の正答数が少なく、記述力に弱みがあることが分かってきました。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

全体的に学力の定着は良好でした。目標を高め置いて教え合いなどの学習活動を取り入れていきます。説明をする側はより分かりやすい説明を求められるため理解を深めたり、理解不足のポイントを見つけたりすることができます。説明を受ける側は分からない部分を分からないと言いやすいといったメリットがあります。だからこそ、教室にいる全員で学びを深められるようにしていきたいと思えます。

国語では「書くこと」に重点を置いて指導をしていきたいと思えます。「話すこと」についてはできていない部分が多いように感じます。その一方で「書くこと」に苦手意識がある子が多いように感じます。それは、「書くこと」の経験不足があるように思えます。将来的なことを考えると、話す力も大切ですが、子どもたちが自分の将来の選択肢を増やしていくためには「書くこと」が必要となります。いわゆる入学試験や就職試験が、すでに記述メインに変わってきています。また、筋道立てて「書くこと」は他教科に

おける論理的思考を助けます。そのために、まずは短い文章を書くことを授業内で取り入れていきたいと思ひます。そして、その文章を聞き合ったり、読み合ったりすることを繰り返して取り入れていきたいと思ひます。その中で、語彙力を増やしたり、言葉の使い方を知ったり、文章構成を互いに学び合ったりできるようにしていきます。

算数では、「図形」が弱みとなっています。5年生では、さらに図形の学習が進み様々な形の角を調べたり、図形の面積を求めたり、立体的な図形を調べたりする学習があります。その際に、既習の内容についても関連させて定着できるように指導していきます。図形の学習では、教科書を見たり、問題を解いたりするだけではイメージを持ちづらひが多いです。そのため、具体物を触ったり、動かしたりしながら授業を進めていきます。6年生では、縮図や拡大図の考えを利用して身の周りの様々な形の長さや面積、体積を求める学習があります。5年生の内に、基本的な図形の定義や性質についての理解が定着できるように学習を進めていきます。

4. 家庭学習にかかわって

基本的には学習した内容の定着を図るため既習事項を「宿題」として毎日出しています。漢字の学習は、新出漢字を学習する際にその漢字を使って短い文を書くこともしています。初めはどんな文章を作ろうかと悩んでいる子が多かったようですが、回数を重ねていくうちに書くことに慣れてくる様子がありました。今後も継続して取り組むことで書くことの経験をたくさん積ませていきたいと思ひます。

多くの子が「宿題」に取り組むことができます。その一方で、「自主学習」の取り組みが今一つです。学校では、友だちが取り組んでいる内容を紹介してどんな内容でどのように行っているのかを交流しています。自主学習では、自分に必要な学習を見つけて取り組むことで苦手を克服したり、得意を伸ばしたりすることができたり、自分に合った学習方法を見つけたりすることができます。与えられた課題をこなす力もちろん大切ですが、自ら考え取り組む学習にこそ値打ちがあると考えられます。まずやってみることから始め、学年全員で取り組めるようにしていきたいと思ひます。

家庭学習のチェックは学校でも行っていますが、ご家庭でもチェックをして頂けると、お子様の学習の習熟がつかめたり、より確かな学力の定着につながったりしますので、ぜひご家庭でもチェックをお願いします。

【4年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

NRTテストの結果は、国語・算数ともに全国平均を下回る結果となりました。みえスタディチェックにおいても国語・算数ともに市の平均を下回っています。特に算数においては大きく下回っています。

分野によっては大きく全国平均を下回っており、国語では「ローマ字」「意見に合った資料の選択」算数では「分数」「図形」「□を使った式」「長さ」の正答率が低いという結果となりました。

2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「漢字の読み書き」に関しては多くの人理解しており、平均的な力がついていると言えます。また「読むこと」の中でも、文中から必要な言葉を探す力がついていると言えます。

算数：「数と計算」の中でも整数のあらわし方について理解していると言えます。

(弱み) 国語：「書くこと」については、大きな課題があります。特に、「条件に合わせて書く」においては10%程度の正答率、無回答率は30%程度になっています。また、「ローマ字の読み書き」についての力を高めていく必要があります。

算数：全体的に全国平均を下回っていますが、中でも四則計算に大きな課題があります。特にかかけ算の正答率が低いです。「思考・判断・表現」の観点に大きな課題があります。文章を

読んで求める式を考える力、文章で説明する力をつけていく必要があります。「分数」「小数」のしくみ、「図形」の構成要素や性質について復習する必要があります。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

どちらの指導においても「くり返し」を重点に置き、定着していく必要があります。NRTの実施時、算数では「大きい数のあらし方」を学習していました。関連した問題について正答率が高く、反対に国語の「ローマ字」や算数のかけ算や円の性質などは、学習から時間がたっていることが正答率の低さの原因となっているのではないかと考えます。学習の確かな定着のために、朝のモジュール学習などを活用し、反復学習にも力を入れていきます。

また、子どもたちが「意識を傾けて聞くこと」ができるよう、一つひとつの学習活動で意識して指導に取り組めます。

国語は、「書くこと」の力を高めるため、作文指導に力を入れていきます。子どもたちの作文を紹介しながら、書き表し方を学び、すすんで書く子どもたちを目指していきます。また授業内において、「○○という言葉を使って」など、条件を提示した書く学習を取り入れていきます。

算数は、「思考・判断・表現」に大きな課題があります。問題文の読み取りの段階でのつまずきが見られます。問題文を図で表したり、必要な言葉や数を探したりする学習や、自分の考えを図や具体物を使って説明する学習に取り組むことでそれぞれに必要な力をつけていきたいと思えます。また、四則計算について朝のモジュール学習の時間を活用しながら定着をしていきます。

4. 家庭学習にかかわって

1学期の家庭学習の振り返りでは、宿題をほとんどの子どもが忘れずにすることができていましたが、見直しや答え合わせに取り組んでいない人が目立ちます。見直しや答え合わせをして確認することが力を伸ばす一歩になります。また、字をていねいに書くことや、わからないところを、教科書などを使って調べてみるなどができることにより効果を上げることができます。家庭学習の振り返りの期間は、めやすの50分間の学習ができていても、期間が終わると宿題だけを急いで終わらせていることはないでしょうか。ゲームや動画視聴の時間を決めるなど、自分で帰宅後の時間の使い方を考えて、自主学習にも取り組めるようにしていきたいと思えます。

宿題や自主学習での今までの復習を取り入れていきます。算数では四則計算、国語では3年生までの漢字やローマ字の書き取りも行っています。

今の学習が、将来の自分を支える力になることを意識しながら家庭学習をすることができるように、学校と家庭が協力しながら子どもたちを励ましていきたいと思えます。

【3年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

各教科を大領域別に比較すると、国語の正答率は、「話すこと・聞くこと」がやや全国平均を上回り、「書くこと」「読むこと」は、全国平均と同等の結果となりました。算数の正答率は、「数と計算」、「図形」、「測量・データの活用」が、全国平均を下回る結果でした。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：中領域別に見ると「相手の話に関心を持ち話し合う」ことや、「文章を読み感想などを伝えあう」ことは、十分な力がついていると言えます。

算数：中領域別に見ると「表やグラフ」は全国平均を上回る結果となり、小問別にみても、すべての問題で全国平均を上回っており、十分な力がついていると言えます。

(弱み) 国語：「読むこと」の「話の内容の大体をとらえる」については、大きな課題があります。また、小問別に見ると、「片仮名の使い方」は全国の正答率も低かったですが本校の正答率も同様に低く、片仮名の基礎的な使い方がしっかりと身につけていないことがわかります。さらに、「主語・述語の理解」についての問題は、4問とも全国の正答率より低く、文章の構成についての理解に課題があります。

算数：「測定」の「長さ、かさ」については、大きな課題があります。小問別に見ると特に、「かさの単位の換算」は、全国の正答率よりも低く、さらなる復習が必要であることがわかりました。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語は、「読むこと」の力を高めていくために、まずは子どもたちが読むことに慣れる必要があります。そのために学級文庫の見直し、読書通帳（読書の記録）の活用など、本を読みたくなるような工夫が必要です。また、説明的文章・文学的文章問わず、短い文章を短時間で読む活動を、朝の学習時間などを利用して取り組み、読む姿勢づくりに取り組んでいきます。その時に読むための用語やポイントなど、読む技能を子どもたちに身につけさせていきたいと考えています。

算数では、特に「たし算とひき算」「長さ、かさ」について、3年生でつながりのある単元の導入では必ず復習として2年生で学習した内容の振り返りをし、これまでの知識を復習できるような授業づくりをしていきたいと考えています。また、授業の終わりにはその授業の振り返りを書く時間を取り、子どもたちの理解度の把握をしていきます。授業中だけでなく長期休業中にはタブレットドリルなども活用し、わからなかったら戻ってもう一度学習していく、反復学習を大切に取り組みを進めていきます。

4. 家庭学習にかかわって

漢字・計算・音読の家庭学習のリズムは整ってきている子が多い学年です。しかし、個々の理解度に差があるため、全員が同じ内容の宿題でも、取り組み方に差があるようです。宿題以外にも、さらに力を伸ばしたり、もう少し復習をしたり、自分で考えて学習をすることができるように、2学期以降は自主学習のやり方指導に力を入れ、自分のやりたい学習を自分から取り組める積極性も身につけさせていきたいと考えています。3年生での家庭学習の時間の目安は40分ですので、その時間は集中して学習に取り組むことができるように、ゲームやテレビの時間を決めるなど、家庭での時間の使い方も考えていけるといいと思います。

【2年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語の正答率は全国平均とほぼ同じという結果となりました。算数については全国平均と比べると、少し下回っているということがわかりました。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「文章を読み感想などを伝え合う」や「漢字の読み、言葉のまとまり」については全国平均を大きく上回る結果となり、力がついていると言えます。

算数：項目別にみると「時刻の読み方」のみ全国平均をわずかに上回っていました。

(弱み) 国語：「話題を決め、伝える内容を選ぶ」、「相手の話に関心を持ち話し合う」や「文や文章を正しく書く」については全国平均を大きく下回っており、課題があります。

算数：全体的に全国平均を下回っていますが、中でも「数の構成と表し方」、「絵や図を用いた数量の表現」については特に課題があります。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語では、「話すこと・聞くこと」に課題があります。授業の中で発表する場面や時間を多く取り入れ、伝えたいことを話すことに慣れる活動を行っていきたいと思います。また発表する活動の中で発表している内容をしっかりと聞く取り組みをしていこうと思います。そして、今回のNRTでは、漢字や言葉が強みとして出てきましたが、1年生の内容項目から出題されています。そのため、2年生に進級し、漢字や言葉も増え、難しいと感じる子どもも多くいるように感じるため、朝学習の時間や国語の時間を使って漢字や言葉の定着を図りたいと思います。

算数では、全体的に全国平均を下回るなど課題が見られる教科といえます。また、国語同様に1年生の学習内容からくる「時刻の読み方」では、強みとなっても2年生の午前午後を用いた時刻の読み方では、学年全体として課題であることがわかってきました。そのため、全ての領域での底上げが必要となってきます。算数プリントや計算ドリルを用いて多くの問題を解き、反復練習から定着を図りたいと思います。

4. 家庭学習にかかわって

家庭学習振り返り週間の取り組みから、平日には家庭学習に時間をかけて取り組んでいる様子がかかってきました。一方で、休日になると生活習慣の乱れや家庭学習をおろそかにしてしまう傾向があります。また、家庭で読書時間を作っている子が少ないという課題も見られました。学校で出た宿題だけでなく、自主学習ノートを使った自主学習や読書の時間を増やして、話す時に使うことができる語彙を増やしていくなど、家庭学習を潤沢にできるよう子どもに声掛けを行っていきます。

【おわりに】

この内容は、子どもたちにも各担任から学年や発達段階に応じたかたちで伝えます。結果をもとに、教職員間で授業改善を図ってきたつもりですが、課題となる姿がまだまだ見られるのが現状です。もちろん教員の専門性として、授業づくりの力を高めることが必要です。校内でも研修を進め、子どもたちの「困り感」を土台とした「きき合い・語り合う授業づくり」を進めようとしているところです。これによって、子どもたちがなかまとともに「主体的で対話的な深い学び」をすることにつながり、学力がついていくと考えています。学校全体としては、子どもたちが自分の意見を出すことや、なかまと考え合うことが、自分やなかまの学力保障につながっていると実感しつつあるところです。今後も、指導の工夫や改善に努めてまいります。